

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信

2018.8
Vol. 70

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信 Vol.70

●平成30年8月発行

●編集・発行 / 総合東京病院

〒165-8906 東京都中野区江古田3-15-2

TEL. 03-3387-5421(代)

特集

肺がパンクする？ 「自然気胸」

総合東京病院
気胸センター・呼吸器外科
森川 利昭

「自然気胸」って何？

肺は胸という入れ物に入って呼吸をしています。この肺がパンクすると、肺の空気が胸に移動します。この状態を「気胸」といいます。「気胸」が特別な操作などを行わないのに発生した場合を「自然気胸」といいます。



「気胸」になって困ること

「気胸」は肺のパンクですから、パンクした肺では呼吸が十分できません。

この状態を「窒息」といい、あまり症状がない場合から、ひどい場合は命にかかわることもあります。

もう一つは「胸痛」です。これは肺と胸が離れることから起きるとされています。

いずれにしても体にとっては緊急事態で、すぐに病院に行く必要があります。

「気胸」の原因

「肺」の弱い部分が様々な誘因によりパンクすることです。肺全体が弱っている人（タバコをたくさん吸った人など）と、肺全体は健康なのに一部に弱い部分（ブラ）がある人がいます。前者は肺気腫のある高齢者に多く、後者はやせて背の高い、少し神経質な若年者に多く見られます。いずれも男性に多いのが特徴です。

「気胸」の治療

「気胸」の重症度はパンクした肺のしぼみの程度で判定します。ごく軽度の



PET-CT装置

PET-CTがんドック予約受付中

「PET-CTがんドック」 86,400円(税込)

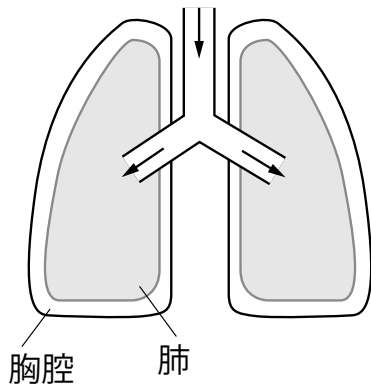
※「脳検査」を追加の場合は、108,000円(税込)になります。

詳しくは、予防医学センターへ

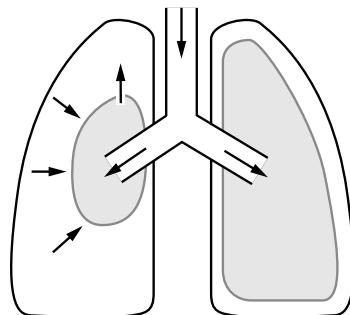
☎03-3387-5462 受付時間 / 月～土(日・祝除く)
AM 9:00 ~ PM 5:00

特集 肺がパンクする？「自然気胸」

<正常な肺>



<気胸>



人はしばらく安静にするだけでパンクは塞がり、良くなります。中等度以上の方は、胸の空気を抜くことで「気胸」を改善することができます。

「気胸」はこのように胸の空気がなくなれば良かったといえます。しかしもう一つの問題は、パンクを起こした肺の弱い部分をそのままにしておくと、半分近くで「再発」することです。

「気胸」の「再発」予防のために

再発予防のための治療には二通りあります。

一つは「癒着術」です。これは胸と肺の間を薬などの刺激で癒着させ、肺がパンクしても空気が胸にたまらないようにする方法で、以前は手術を避けるために良く行われていました。

もう一つは「手術」です。肺の弱い部分を切り取って健康なところで縫合します。パンクしている弱い部分を取り除くことができるので、最も確実で根本的な治療といえます。もちろんパンク状態が継続している人も「手術」で治療することができます。

どんな「手術」が行われるの？

以前行われていた胸を大きく開く「開胸手術」に比べ、小さな傷で行う「胸腔鏡手術」

は傷も目立たず、痛みが小さく後遺症もほとんどありません。入院期間も数日で済み、早期の社会復帰も可能です。特に若い人は再発防止の観点から手術が勧められます。

総合東京病院の「単孔式胸腔鏡手術」

「胸腔鏡手術」は通常、胸に数か所の小さな傷を開けて行われます。総合東京病院では「胸腔鏡手術」を改良し、胸の一か所の傷だけで行う「単孔式胸腔鏡手術」を採用しています。その結果、さらに痛みの少ない手術が可能になりました。

当院では5月より気胸外来を開設しています。「息が苦しい」、「胸の痛み」などの症状がある場合は、ご相談ください。



一般的な三孔式

単孔式